

見学会及び講演会と第 19 回道央技術士会総会

道央技術士会では平成 21 年度後期の活動として「イブリアスコン見学会及び講演会」と「第 19 回道央技術士会総会」を実施しました。以下、簡単に報告します。

1. 「イブリアスコン見学会」

日時：平成 22 年 1 月 19 日(火曜日)

13:00～14:00

場所：登別市大和町 1 丁目 8 番地 23

施設：イブリアスコン共同企業体

(富士建設・菱中建設・大成ロテック)

室蘭地区に本社をもつ富士建設が幹事会社となっているイブリアスコン共同企業体のアスファルトプラント見学会を企画しました。共同企業体の出資比率は富士建設 50% 菱中建設 30% 大成ロテック 20%となっています。3 社は登別市大和町で会社が隣接しており、以前はそれぞれアスファルト合材を製造していましたが、効率化等から新工場を建て製造を集約したそうです。プラント能力は 120 t/H、ストックサイロは 2 基で 220 t と道南では最大規模だそうです。騒音振動を抑え、防塵装置を完備し煤煙を追放した無公害、省力化プラントです。

敷地内にはバイオディーゼル燃料(BDF)製造工場もあり見学させていただきました。当地区から発生する食用油の 5,000 ℓ 程度を毎月回収して工事等で使用する重機燃料の一部に使用しているとのこと。現段階では市販の軽油より割高だそうです。回収量が数万 ℓ に増えればトータルコストが下がり市販より安価になるそうです。冬期間は凍結等、問題があり製造していません。

2. 「アスファルト舗装のマイクロ波加熱による再生処理」

日時：平成 22 年 1 月 19 日(火曜日)

14:30～16:30

場所：室蘭市水元町 27 番 1 号

室蘭工業大学 音響工学研究室

講師：室蘭工業大学 大学院工学研究科

もの創造系領域 鏡 慎 教授

北海道では、まだ一般的ではありませんが、アスファルト舗装の路上表層再生工法(サーフェスリサイクリング)等で現在のバーナー加熱(ロードヒーター)にかわりマイクロ波を利用する技術の研究です。従前のバーナー加熱ではアスファルトの炭化による劣化や熱効率の悪さが指摘されていました。その点マイクロ波を利用すれば、より安定的、効率的な加熱が期待でき、コストの削減にもなります。温度調節も可能でありオーバーヒートも最小限に抑えられます。

北海道のような積雪寒冷地の舗装で、膨大な燃料(灯油)を必要とする凍結路面を溶かし乾燥させる作業にも応用できます。原理は対象物に水分が数%含まれているとマイクロ波が反応して温度上昇が起こるようで、舗装の場合は骨材の中に必要な水分が含まれているそうです。試験装置で実験を見せてもらいましたが、アスファルトの供試体温度が数十秒で 150℃ 程度まで上昇したのには驚きました。株式会社 NIPPO との共同研究にもなっているようで、今後は高効率加熱装置の形状を検討するそうです。

3. 「第 19 回道央技術士会総会及び情報交換会」

日時：平成 21 年 4 月 20 日(火曜日)

18:00～20:00

場所：グランドホテルニュー王子

苫小牧市表町 4 丁目 3 番 1 号

1) 講演会 18:00～18:30

演題：「労働安全衛生マネジメントシステム概要」

(リスクアセスメントとは?)

講師：岸道央技術士会代表幹事

2) 情報交換会 18:30～20:00



情報交換会



岸代表幹事の講演会



情報交換会



情報交換会

今回の総会には忙しい中、新しく技術士になられた方も含め総勢 22 名に参加していただきました。

岸代表幹事の講演では、災害の発生要因や防止のための教育訓練、安全のコスト等に対する日本と欧米の考え方の違いが興味深かったです。

最後は中野苫小牧副市長に挨拶をお願いしたのですが、「技術士は技術者の勲章。」(資格のブランドの意味ではなく、日常の業務に創意工夫、努力したその結果が技術士なのだという意味に受け取りました。)との言葉が心に響きました。